



2011年(平成23年)10月期

第2四半期決算説明会資料

株式会社オービス

代表取締役社長 なかはま ゆうじ 中浜 勇治

(大阪証券取引所(ジャスダック市場)、証券コード:7827)

2011年6月23日

●目次

PART1 会社の概要	3
●プロフィール	4
●経営理念・沿革	5
PART2 事業の特長(強み)	6
●木材事業のビジネスフロー	7
●木材事業の特長	8
PART3 2011年10月期第2四半期の連結業績	11
1. 四半期連結損益計算書	12
2. 売上高・四半期純損失の増減要因	13
3. 報告セグメント業績	
●木材事業	14
●ハウス事業	15
●アミューズメント事業	16
●不動産事業	17
4. 四半期連結貸借対照表及び四半期連結 キャッシュ・フロー計算書	18

PART4 市場環境と取組みの進捗状況	19
●木材事業の市場環境 ①	20
●木材事業の市場環境 ②	21
●木材事業の市場環境 ③	22
●木材事業:取組みの進捗状況	23
●ハウス事業の市場環境	24
●ハウス事業:取組みの進捗状況	25
●アミューズメント事業の市場環境	26
●アミューズメント事業:取組みの進捗状況	27
PART5 2011年10月期の業績予想	28
1. 連結業績予想(通期)	29
2. 予想配当	30
●本資料お取扱上のご注意	31
●IR担当窓口	32

PART1

会社の概要



ニュージーランドの松林(写真提供:住友林業株式会社)

ニュージーランド松製材の国内最大手

当社グループは、木材、ハウス、アミューズメント、不動産の4つの事業を基盤にビジネスを展開しております。特に主力の木材事業では、ニュージーランド松(ラジアータパイン)製材の国内最大手の評価を頂いております。

会社名	株式会社オービス
設立	昭和34年11月
代表取締役社長	中浜 勇治(なかはま ゆうじ)
資本金	6億8,498万円
従業員数	243人(2011年4月末現在)
連結売上高	91億円(2010年10月期末)
事業内容	梱包用材等の製造、販売、プレハブハウスの製造、販売、仮設建物等のリース、一般建築の請負、太陽光発電パネル等の施工・販売、カラオケハウス及びゴルフ場の運営、不動産の賃貸及び売買
本社	〒729-0105 広島県福山市南松永町四丁目1番48号
連結子会社	株式会社パル TUI MARITIME S.A. (パナマ)

●社名の由来●



当社社名の「オービス(ORVIS)」とは、ラテン語で「創設者・出発点」という意味を持つ「origao」と、「パワー・効力」という意味の「vis」を組み合わせた造語です。みなぎる活力で未来を創造していきたいという企業テーマを象徴しております。

経営理念

顧客満足・社員満足

当社グループの経営理念「顧客満足・社員満足」は、「お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の皆様利益を還元していく」という意味をあらわしております。

当社グループの主要な沿革

昭和34年11月	有限会社中浜材木店を設立	平成元年10月	広島市安佐北区にカラオケハウス1号店を開店
昭和37年 5月	広島県世羅郡世羅西町(現世羅町)に製材工場を建設	平成 4年 4月	株式会社オービスに商号変更
昭和43年 3月	ニュージーランド松の製材工場建設 同時にプレハブ部材の生産開始	平成14年 8月	木材運搬船「グリーンホープ」(最大積載量35,000トン)完成、航海開始
昭和46年 6月	広島県福山市に製材工場移転 同時にプレハブハウスの完成品を販売開始	平成14年11月	中須ゴルフ倶楽部の営業譲渡を受け、営業開始
昭和49年 9月	有限会社中浜材木店を組織変更し、中浜木材株式会社を設立	平成15年 5月	広島県福山市に賃貸マンションを取得し、不動産賃貸開始
昭和62年12月	広島市西区に賃貸ビルを建設し、不動産賃貸開始	平成18年9月	ジャスダック証券取引所に上場 (現大阪証券取引所JASDAQ市場)
平成元年 4月	カラオケハウスの製造販売開始	平成20年8月	木材事業姫路工場稼働開始
		平成22年2月	太陽光発電パネル等の施工・販売の開始

PART2

事業の特長(強み)



●木材事業のビジネスフロー

仕入・船積

ニュージーランド産ラジアータ松の原木を現地輸出業者から直接仕入



特徴①

海上輸送

専用運搬船「グリーンホープ」で日本まで安定・低コスト輸送



港からの搬入

原木を港湾地域にある当社本社工場及び姫路工場の2ヶ所へ搬入



特徴②

大量製材

独自の大型機械化製造ラインで大量・低コスト製材



出荷

製品を顧客及びユーザーへ直送



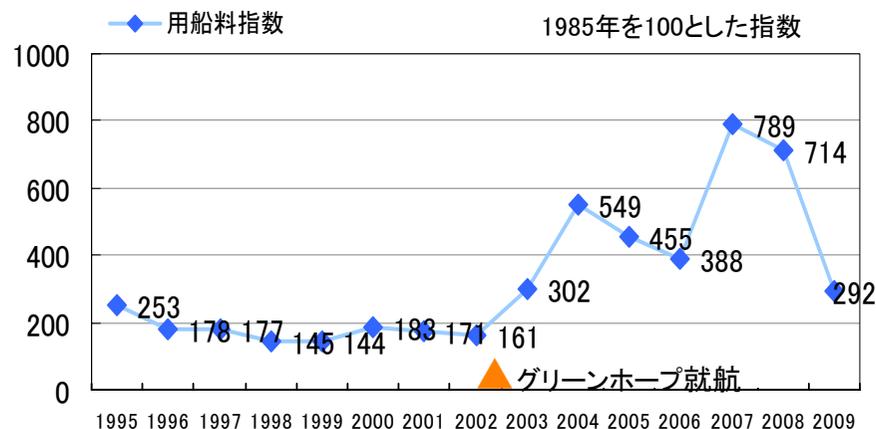
● 木材事業の特長① 専用木材運搬船「グリーンホープ」

■ 安定した輸送コストを実現

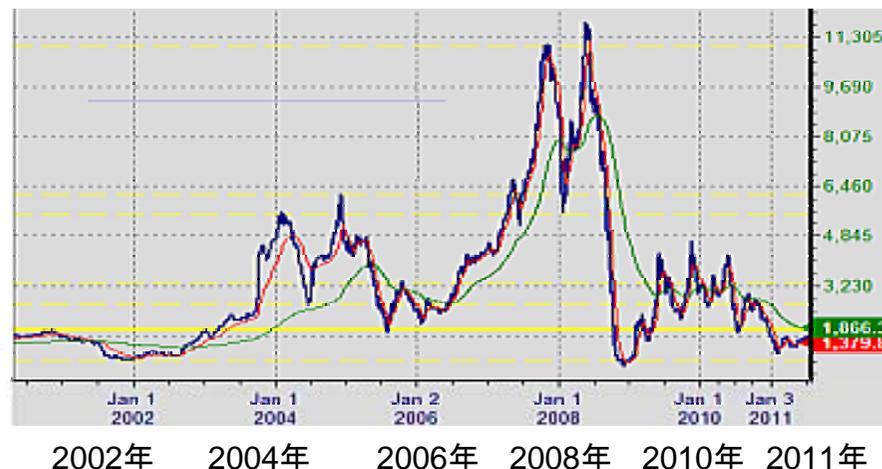


- 専用木材運搬船「グリーンホープ」(最大積載量35,000トン)を保有
- 日本とニュージーランドの間を年間9往復し、原木を海上輸送
- 安定的な輸送手段と輸送コストを確保＝国際用船料相場の高騰に影響されない

■ ロイズ SHIPPINGエコノミストによる
不定期船定期用船料指数 (2万トン以上3万5千トン未満クラス)



■ バルチック海運指数 (ロンドン海運取引所算出)



● 木材事業の特長② 最新の「3Dスキャンシステム」と製材ライン

■ 立体解析されたデータにより自動製材



- 独自の「3Dスキャンシステム」を新工場に設置
- 木材をコンピュータで立体的に解析、最適な木材の切り出し図を自動判定
- 解析データによりすべての機械をコントロールし、自動的に製材を行う。

当社独自の「3Dスキャンシステム」

●木材事業の特長③ 製品の特徴

■ラジアータ松の強み

- 植林木のため資源量が豊富で安価⇒恒久的に安定供給できる
- 柔軟性に富み加工性に優れる ⇒梱包用材に最適
- 原木の直径が大きく、幅広い製品が取れる
- 計画植林のため環境負荷をかけない

■価格競争力

- 直接仕入、自社船による安定的低コスト輸送、大量製材、直接販売等により、ローコストオペレーションが確立されており、価格競争力がある

■国内挽製材による多品種、大量、速納性

- 国内の2ヶ所の工場で製材をしているため、多様な顧客ニーズに合わせたきめ細かい製材明細を大量に対応することが可能
- 海外で製材する輸入製材品は、通常3ヶ月前から注文を確定しなければならない。当社は1週間程度で納品できるため速納性にすぐれている

●当社ブランドイメージ「安く、早く、大量に安定供給できる」

PART3

2011年10月期第2四半期の連結業績

1. 四半期連結損益計算書

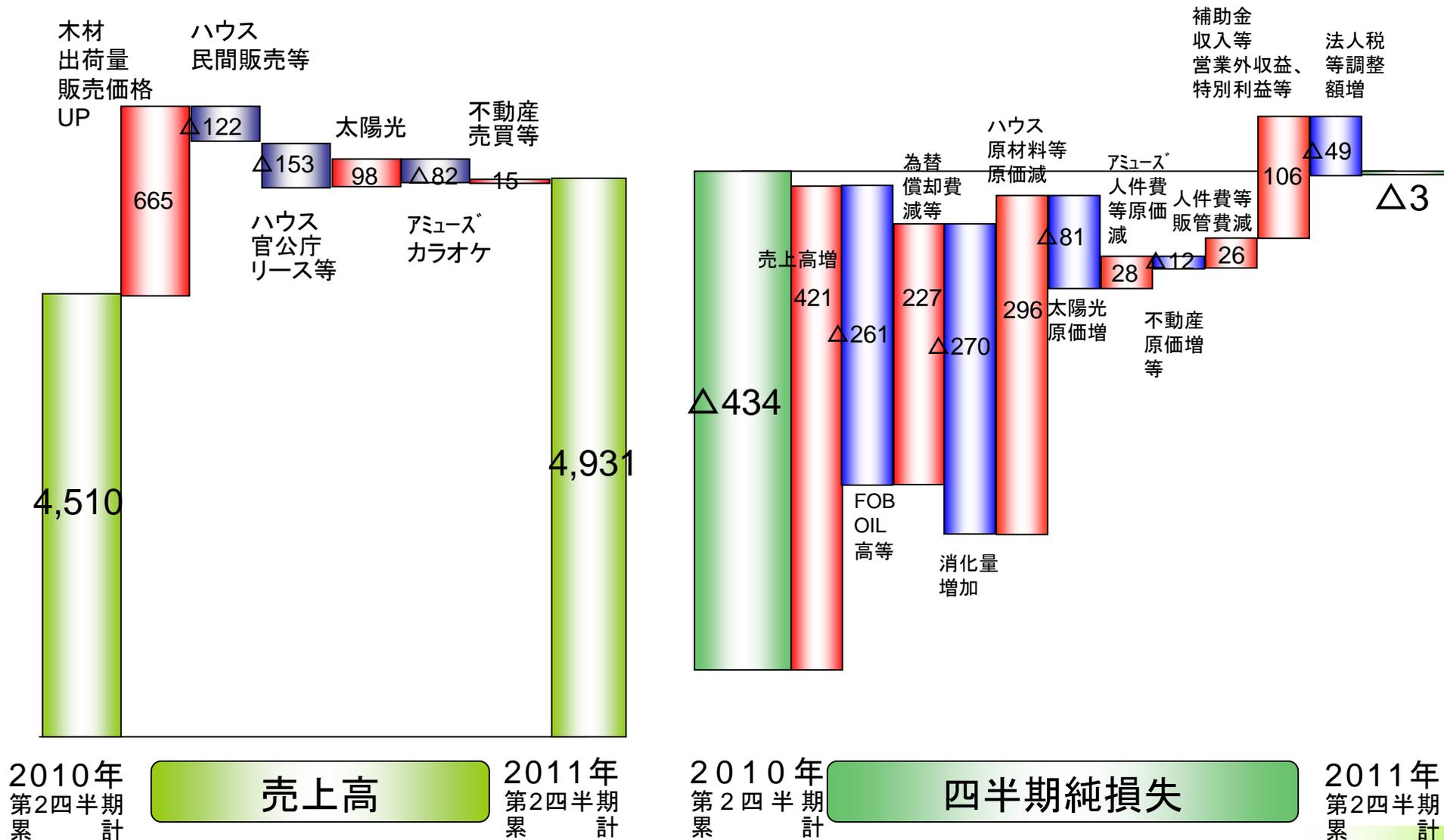
(単位:百万円)

	2010年 第2四半期 累計実績	百分比	2011年 第2四半期累計 当初業績予想	2011年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比	業 績 予想比
売上高	4,510	100.0%	5,138	4,931	100.0%	109.3%	96.0%
売上総利益	331	7.4%	812	679	13.8%	204.8%	83.7%
販売費及び 一般管理費	711	15.8%	703	685	13.9%	96.3%	97.4%
営業利益又は 営業損失(△)	△379	—	108	△5	—	—	—
経常利益又は 経常損失(△)	△436	—	79	△32	—	—	—
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	△434	—	54	△3	—	—	—
1株当たり四半期純利益 又は四半期純損失(△)	△250.85円	—	31.58円	△2.02円	—	—	—

●前年同期比で木材事業の出荷量は10.2%増加し、販売単価も19.3%上昇したものの、原木FOB価格及び船舶燃料等の再上昇と、建設不況によるハウス事業の苦戦等により予想に届かずわずかに赤字が残る。

2. 売上高・四半期純損失(△)の増減要因

(単位:百万円)



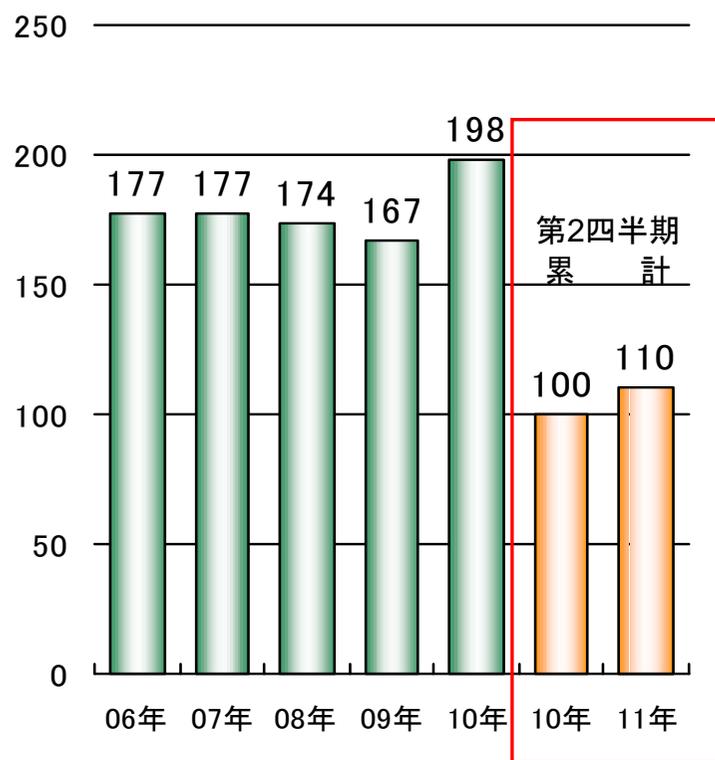
3. 報告セグメント業績

● 木材事業

- 出荷量 前年同期比10.2%増加、販売単価19.3%上昇により増収、営業利益黒字化
- 原木FOB価格が再上昇(10年10月入港V67番船と10年5月入港V71番船の比較で24.9%上昇)
- 品質向上のための不良材の除去により、製品歩留が予想を下回り、原価を押し上げる。

■ 当社出荷量の推移

(単位:千m³)



■ 木材事業の業績

(単位:百万円)

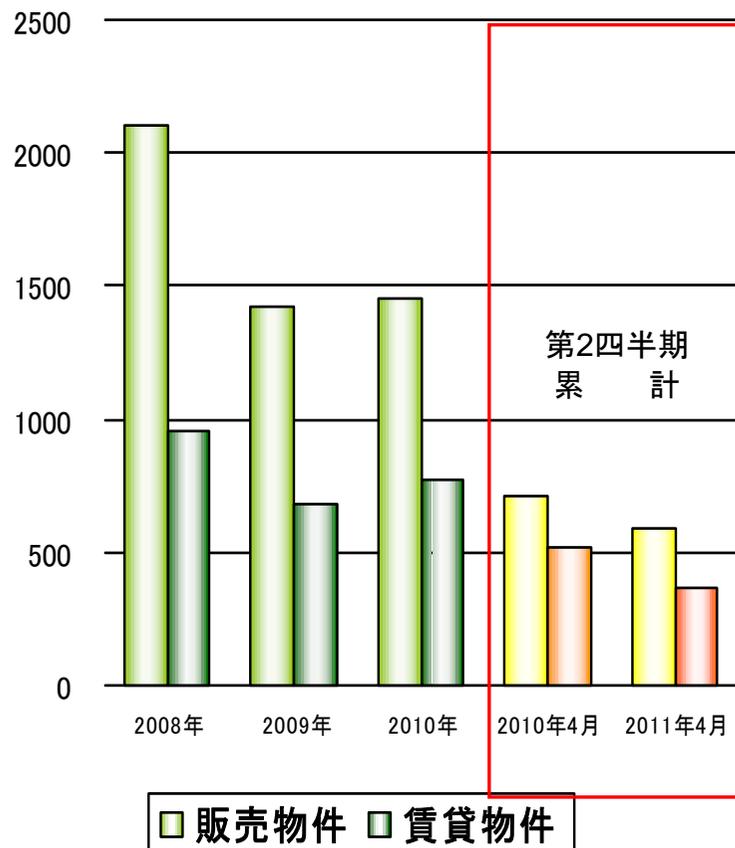
	2010年 第2四半期 累計実績	百分比	2011年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	2,748	100.0%	3,413	100.0%	124.2%
営業費用	3,061	111.4%	3,365	98.6%	109.9%
営業利益又は 営業損失(△)	△313	—	47	1.4%	—
平均為替 レート(円)	91.06	—	82.92	—	91.1%

● ハウス事業

- 長引く建築不況により販売物件、賃貸物件共に低迷し、大幅に減収。
- 厳しい原価管理により売上総利益率が前年同期比で5.5%改善し、営業利益を黒字化。

■ 販売物件、賃貸物件売上の推移

(百万円)



■ ハウス事業の業績

(単位:百万円)

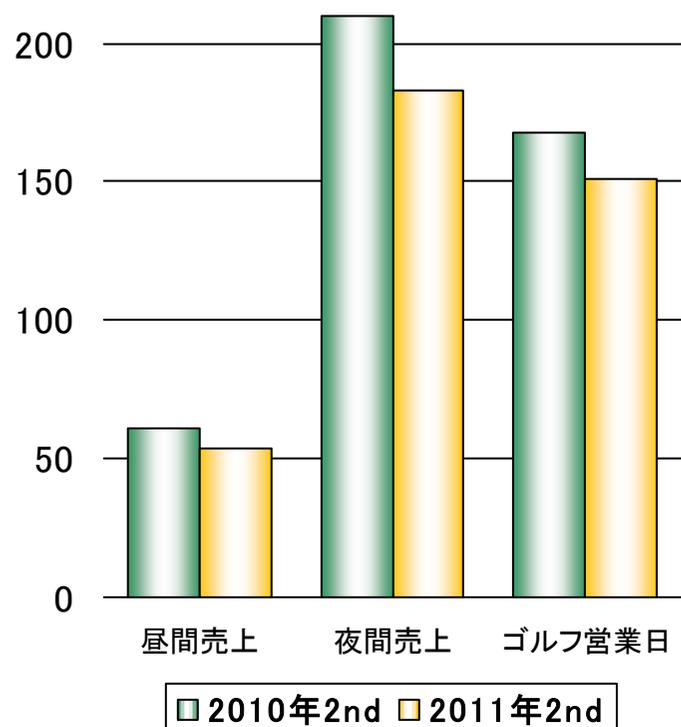
	2010年 第2四半期 累計実績	百分比	2011年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	1,253	100.0%	1,074	100.0%	85.7%
営業費用	1,281	102.3%	1,047	97.5%	81.7%
営業利益又は 営業損失(△)	△28	—	26	2.5%	—

2010年第2四半期累計実績 売上高には内部取引2百万円を含んでおります。

● アミューズメント事業

- 茅場町店の閉店により、売上利益ともに減少。(売上△38百万円、営業利益△11百万円)
- 景気悪化の深刻化により、特に夜間の売上が減少。(昼間10%、夜間13%ダウン)
- 厳冬によるゴルフ場の営業日の減少、震災による自粛ムード等により環境は悪化。

■ カラオケ店舗時間別売上高(百万円)及び
ゴルフ営業日(日数)



■ アミューズメント事業の業績

(単位:百万円)

	2010年 第2四半期 累計実績	百分比	2011年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	461	100.0%	379	100.0%	82.3%
営業費用	420	91.0%	392	103.3%	93.3%
営業利益又は 営業損失(△)	41	9.0%	△12	—	—

● 不動産事業

- 賃貸マンションは横ばい、売買物件実績(1件)の販売金額の差(15百万円)により売上高が増加。

■ 不動産事業の業績

(単位:百万円)

	2010年 第2四半期 累計実績	百分比	2011年 第2四半期 累計実績	百分比	前年 同期比
売上高	49	100.0%	64	100.0%	129.2%
営業費用	28	58.4%	39	60.9%	134.7%
営業利益	20	41.6%	25	39.1%	121.4%

4. 四半期連結貸借対照表及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書

■ 要約四半期連結貸借対照表

(百万円)	2010年 第2四半期末	構成比	2011年 第2四半期末	構成比	増減	主な要因
流動資産	5,353	45.1%	5,623	48.7%	270	売上債権、棚卸資産の増加、前渡金等の減少
固定資産	6,527	54.9%	5,935	51.3%	△592	姫路工場の機械装置等の償却等による減少
資産合計	11,880	100.0%	11,558	100.0%	△321	
流動負債	4,202	35.4%	4,447	38.5%	244	1年内返済長期借入金の増加
固定負債	6,134	51.6%	5,818	50.3%	△315	長期借入金の減少
負債合計	10,336	87.0%	10,265	88.8%	△71	
純資産	1,543	13.0%	1,293	11.2%	△250	利益剰余金の減少
負債及び純資産合計	11,880	100.0%	11,558	100.0%	△321	

■ 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2010年 第2四半期	2011年 第2四半期	主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	△592	84	利益の増加、前渡金の減少
投資活動によるキャッシュ・フロー	△102	63	受取補償金収入の増加
財務活動によるキャッシュ・フロー	155	△78	短期借入金の減少、長期借入の返済による支出の増加
現金及び現金同等物の四半期末残高	828	777	

自己資本比率
 13.0% 11.2%
 有利子負債比率
 70.0% 69.4%

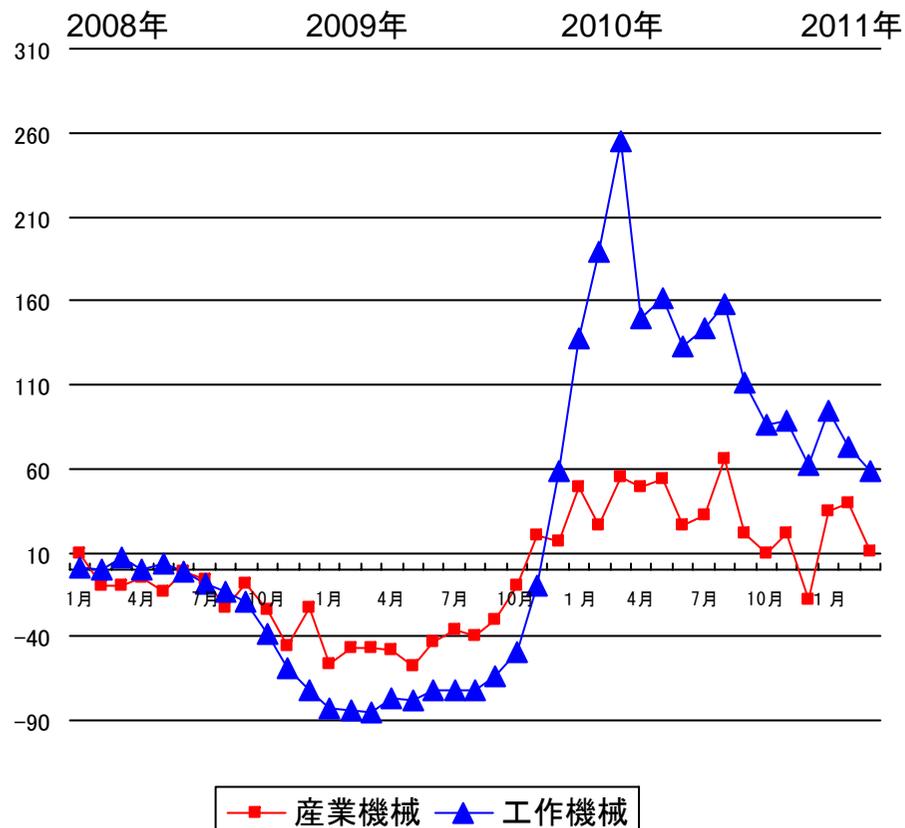
PART4

市場環境と取組みの進捗状況

● 木材事業の市場環境 ①～梱包用材のエンドユーザーの環境

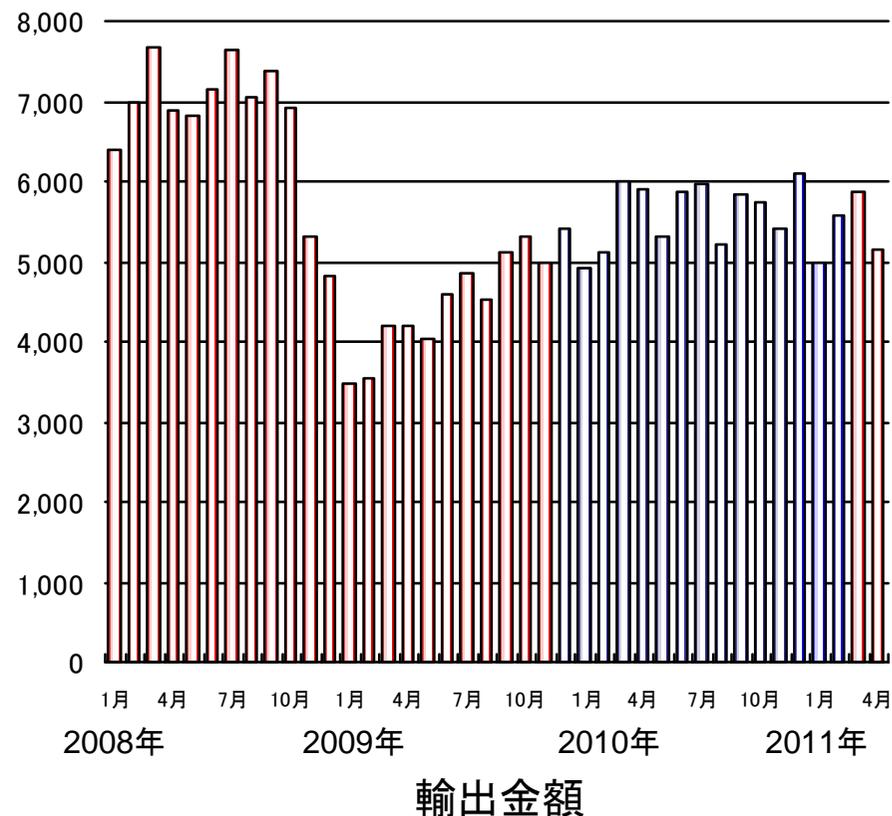
■ 産業機械及び工作機械の受注状況

内閣府経済社会総合研究所 機械受注統計調査
前年同月比 (%)



■ 輸出の状況

財務省 貿易統計 (十億円)

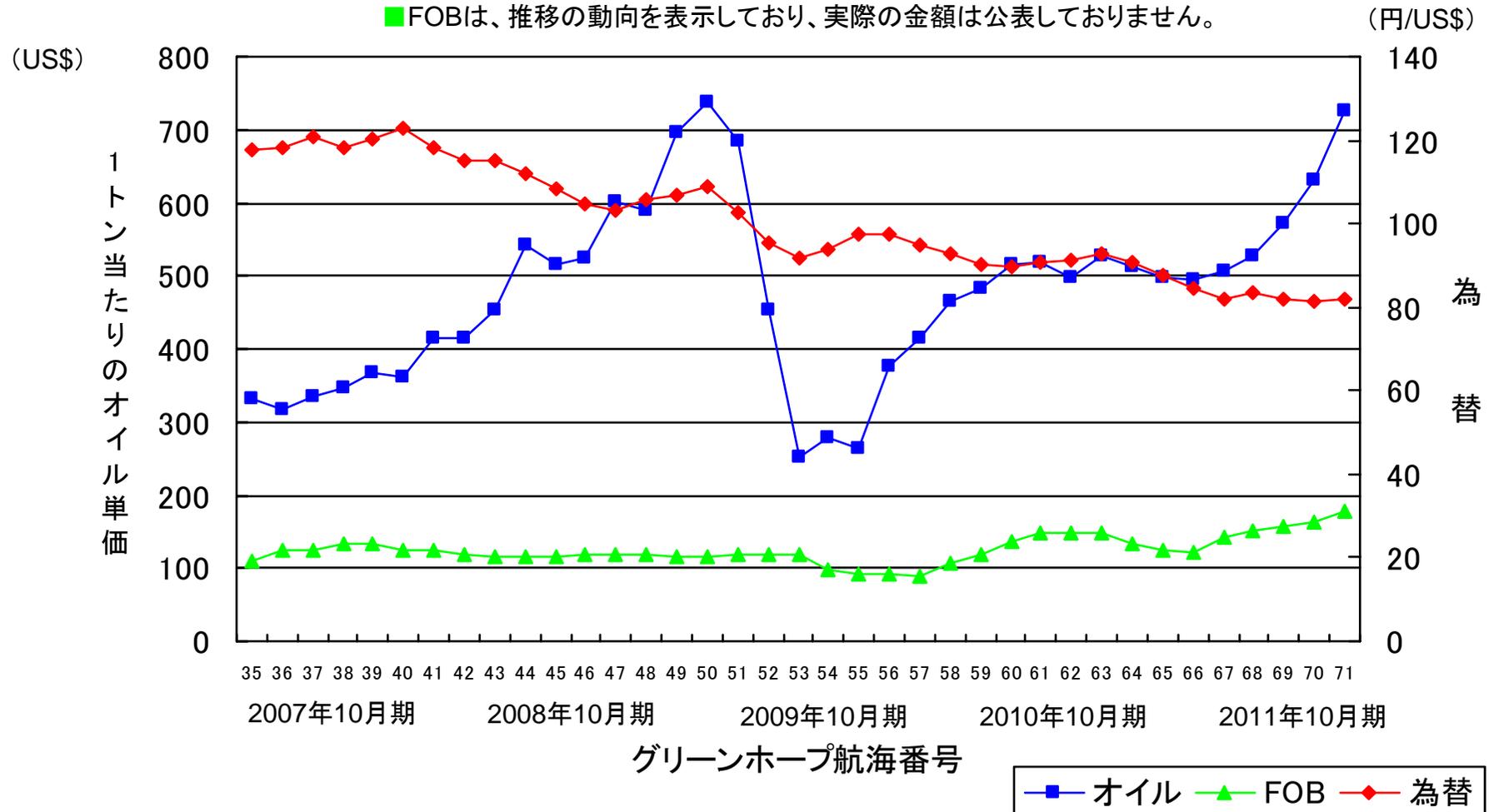


- 産業機械・工作機械等の受注は、弱含みだが4月以降に回復の兆し。
輸出は、震災の影響で11年3月、4月共に前年同月比を下回った。サプライチェーンの回復が期待される所。

●木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

■ 為替・オイル・FOBの推移

■ オイルは自社船の各航海毎の1トン当たりの単価をUS\$で表示しております。(左軸)
 ■ 為替は、各航海の平均為替レートを表示しております。(右軸)
 ■ FOBは、推移の動向を表示しており、実際の金額は公表しておりません。



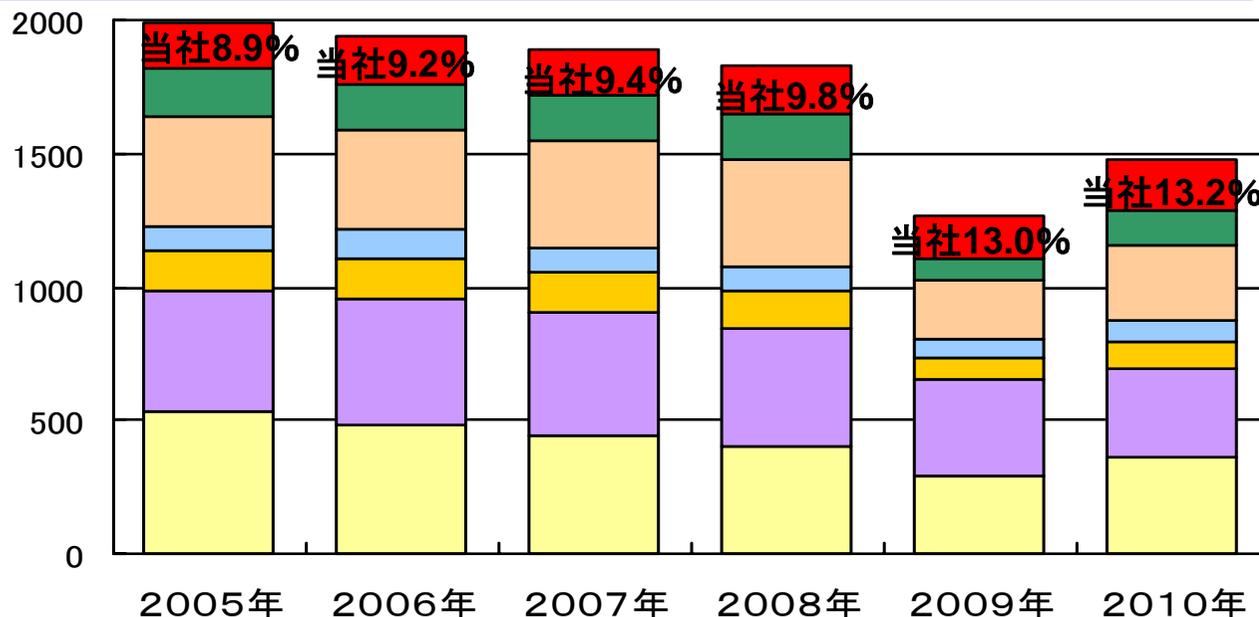
●オイルは急上昇(次回72番船は673ドルと下降気味)、為替は円高が継続。FOBは前期のピークをこえ最高値。

※FOBとは、原木を船に積み込んで引き渡すまでの価格のことをいいます。

● 木材事業の市場環境 ③～市場シェアの動向

■ 木材梱包用材の全体の出荷量と当社の比率 単位：千㎡

全体の出荷量 1,994 1,940 1,893 1,828 1,284 1,500



その他の地域
 北海道
 高知県
 広島県
 チリ輸入製材品
 ニュージーランド輸入製材品
 当社

※ニュージーランド輸入製材品、チリ輸入製材品は、財務省輸入統計の通関量を表示しております。
 ※輸入製材品以外の出荷量は、農林水産省木材統計の用途別製材品出荷量の「木箱仕組板・梱包用材」を表示しております

■ 販売先数の推移

2007年11月
393社

↓ 15%UP

2008年4月
453社

↓ 20%UP

2009年4月
547社

↓ 25%UP

2010年4月
686社

↓ 13%UP

2011年4月
776社

● 木材事業：取組みの進捗状況

■ 出荷量 第2四半期累計出荷量109,938m³(予算比103.1% 前期比110.2%)

■ 販売価格の適正価格への引上げ

第2四半期累計平均価格で予算比101.1%、前期比119.3%

4月末価格で予算比105.3%、前期比111.1%

今後も原木価格の上昇を販売価格に転嫁する。

■ 姫路工場の生産効率を高める。

原木消化量は、安定。3月 過去最高消化量25,850m³(稼働率91.2%)

第2四半期累計消化量137,307m³(予算比104.9% 前期比125.8%)

● 製品歩留向上対策

1. ソーター改善による折れ材の減少
2. 原木外側部分を有効利用した2等材の生産
3. カット材生産ラインの増設による2等材の有効利用

● ハウス事業の市場環境

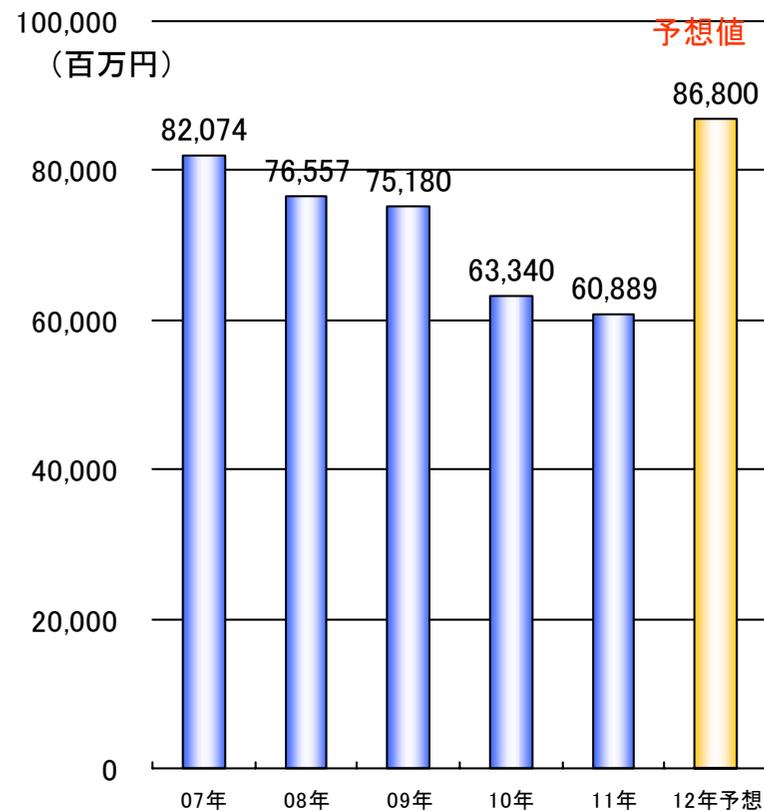
■ 建設総合統計(出来高ベース) 国土交通省



● 公共工事は悪化、民需もエコポイント終了で弱含み

● プレハブ大手4社の2012年3月期は、震災復興需要による大幅な増収を見込んでいる。

■ プレハブ業界大手4社の売上高推移



(注) 上場しているプレハブ大手4社(日成ビルド工業、東海リース、三協フロンテア、ナガワ)の決算短信をもとに、売上高の合計を掲載しております。

●ハウス事業：取組みの進捗状況

■東日本大震災の応急仮設住宅建設

- 宮城県で140棟(6月1日現在幹旋数)の応急仮設住宅を担当し6月1日から着工。
仮設住宅への1日でも早い入居を希望される被災者の皆様のために、より早く、より多くの仮設住宅を提供できるよう尽力。



宮城県の応急仮設住宅建設現場

■10百万円以上の中・大型案件の受注

- 当期完工の契約済み案件が202百万円
- 当期から来期にかけての商談中の案件が1,252百万円

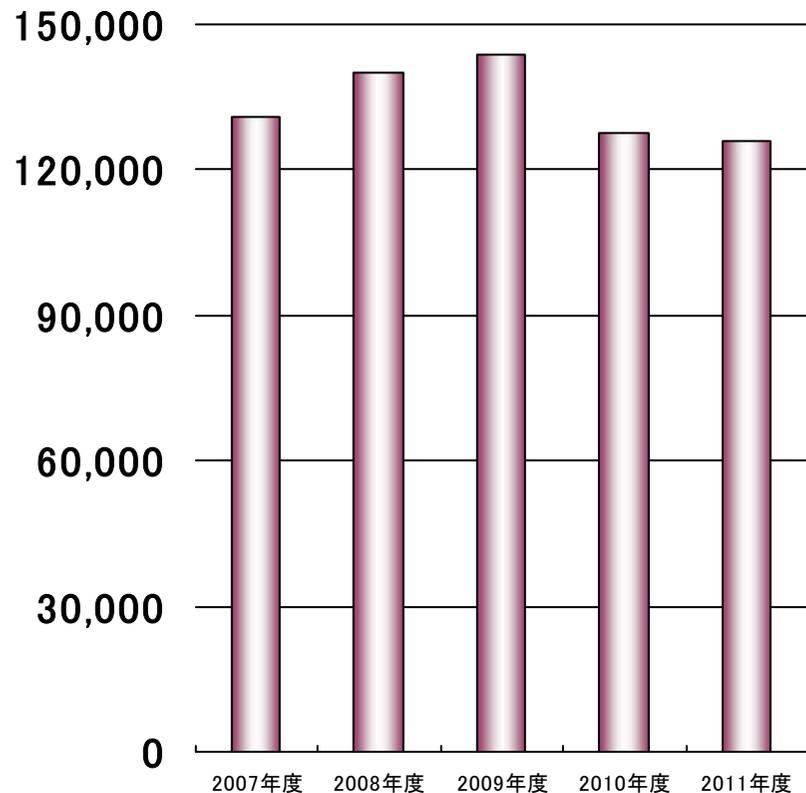
■太陽光発電

- 太陽光発電 第2四半期累計売上 120百万円
震災で一時保留となった案件もあるが、商社、ゼネコン、リース会社、大手農機具メーカー等からの商談を継続中。
また、CO2対策、計画停電対策等での急ぎの商談も発生。



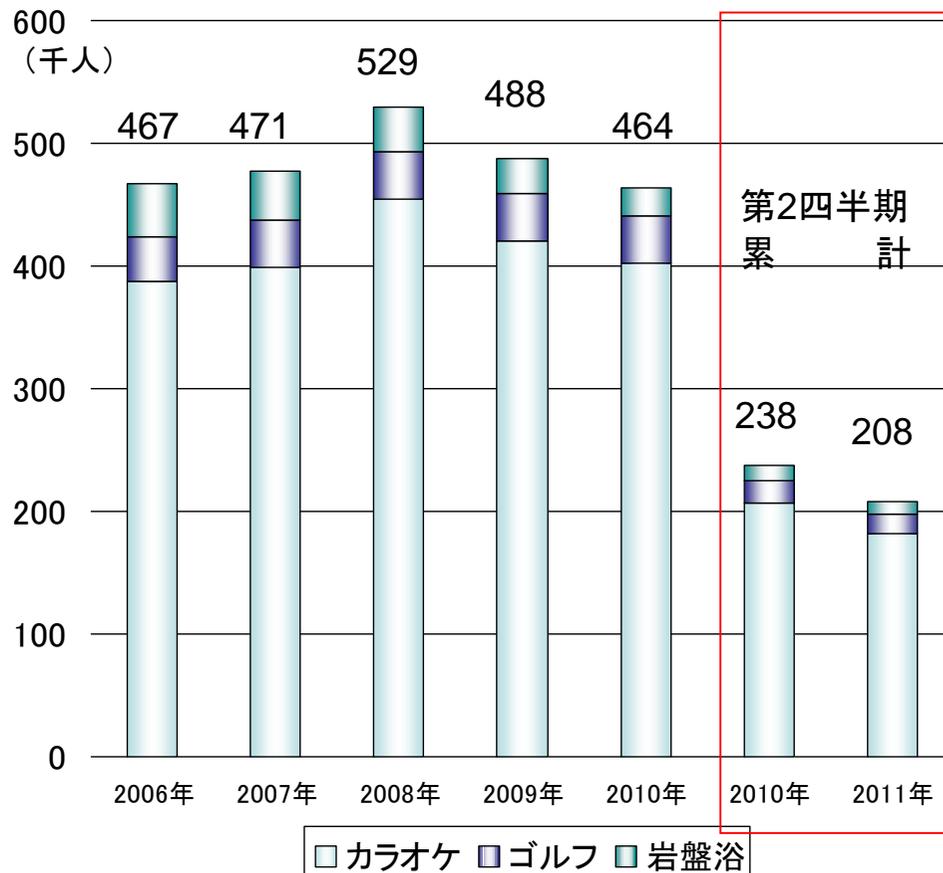
● アミューズメント事業の市場環境

■ カラオケ上場5社売上高推移 (百万円)



上場しているカラオケ5社(シダックス、第一興商、AOKIホールディングス、鉄人化計画、コシダカ)の決算短信をもとに、カラオケ事業の売上高の合計を掲載しております。なお、決算期が3月ではない2社につきましては、直近の決算短信の通期予想を基に数値を作成しております。

■ 当社のアミューズメント事業の利用者数



● カラオケ大手チェーン店のうち、1社は苦戦、その他は横ばい又は微増。

● 当社は、茅場町の閉店、ゴルフ場の営業日の減少、夜間客の減少等で利用客減。

●アミューズメント事業：取組みの進捗状況

■モバイル端末の積極利用

- 携帯電話等へメールによるイベント、サービス告知。
レジ横へのQRコードの設置によるメール会員の募集。

■既存店舗の収益力の向上

- 地元尾道の食と観光をテーマにした尾道フェアの開催。
- 宇部店の店内に地元尾道の有名洋菓子店をオープン。
- 東日本震災支援のチャリティー飲み放題キャンペーンの開催。



PART5

2011年10月期の業績予想

1. 連結業績予想(通期) 通期見込みを据え置き (単位:百万円)

	2010年	百分比	2011年	百分比	前期比
売上高	9,190	100.0%	10,386	100.0%	113.0%
売上総利益	850	9.3%	1,571	15.1%	184.7%
販売費及び一般管理費	1,366	14.9%	1,411	13.6%	103.3%
営業利益又は営業損失(△)	△516	—	159	1.5%	—
経常利益又は経常損失(△)	△625	—	59	0.6%	—
当期純利益又は当期純損失(△)	△651	—	7	0.1%	—
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	△376.34円	—	4.50円	—	—

- 木材事業の製品出荷量の増加、適正販売価格への引上、姫路工場の歩留向上で増収、黒字化達成

2. 予想配当

期末配当		配当性向
2010年 10月期	普通配当 10円	—
2011年 10月期	無配	—

予想配当は無配

●本資料お取扱上のご注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

●IR担当窓口



株式会社 オービス

経営企画室 中奥 淳史

Tel. 084-934-2621 (代)

Fax. 084-934-2624

E-mail: ir@orvis.co.jp

URL: <http://www.orvis.co.jp>